



私の撮っておきの川崎2 **武藏小杉編**
平成27年度 景観まちづくり意識普及イベント

私の撮っておきの川崎2

武藏小杉編



川崎市まちづくり局計画部景観・まちづくり支援課
協力:景観整備機構(一般社団法人神奈川県建築士会川崎支部)

平成27年度 景観まちづくり意識普及イベント

ワークショップについて

市民の皆様に、景観まちづくりに対する意識を高めていただくことを目的に、第2回目のイベントを実施しました。

今回の「私の撮っておきの川崎2」武蔵小杉編は、景観まちづくりについて学び、武蔵小杉のまちを歩きながら、お気に入りの写真を撮っていました。そして、フォトブックに掲載する写真を選んでいただき、参加者の投票による「市民賞」、コメントーターによる「石川賞」を選出しました。

このワークショップの様子と皆様の撮っておきの一枚をフォトブックにまとめました。

開催日時：平成27年12月5日(土)午後1時から
開催場所：かわさき市民活動センター会議室
当日参加者：18名



コメントーター

いし かわ はじめ
石川 初 氏
慶應義塾大学教授

略歴

学歴 東京農業大学農学部造園学科卒業

主な経歴 鹿島建設株式会社建築設計本部、米国HOK社プランニンググループ派遣修生、株式会社ランドスケープデザイン設計部デザインリーダー

専門分野 ランドスケープアーキテクチュア（景観・緑地・造園の計画、設計）、地理、地理教育（地形、地図などの研究と表現）

所属学会・団体 日本造園学会、日本生活学会、日本地理学会、東京大学空間情報科学研究所協力研究員

「景観」とは

風景。景色。特にすばらしいながめ。

広辞苑 より



具体的には

景観

「人間をとりまく環境のながめにほかならない」

(中村良夫：景観学者 東京工業大学名誉教授)

見る人の主觀が介在するもので、操作が可能、短時間でつくることができます。

風景

「広域の地勢や文化を背負ったもの」

(西村幸夫：都市工学者 東京大学先端科学技術研究センター教授 工学博士)

景観は10年、風景は100年、風土は1000年でつくられるものとも考えられます。

景観の四分類

- ・都市景観：都市の中心地の景観
- ・歴史景観：歴史的な町並み
- ・自然景観：水とみどりの景観
- ・生活景：生活に伴う、記憶を伴った風景



武蔵小杉の景観づくり



平成14年撮影(出典:川崎市)



平成27年11月撮影(出典:川崎市)

武蔵小杉駅は、川崎市中原区のほぼ中央に位置し、多くの鉄道路線が乗り入れるターミナル駅です。

古くは中原街道を中心に栄えていましたが、大正14年に東急東横線が開通、昭和2年に南武線が開通して以降、大規模工場の立地や宅地化が進み、現在のまちの骨格が形づくられました。

現在の開発が行われる前の武蔵小杉駅周辺は、道路が狭いため、バスや自動車による駅前アクセスが困難であり、歩車分離もされておらず、放置自転車も多い状況でした。また、駅前には、変電所やグランドなどが立地しており、本市の都市拠点にふさわしい土地利用がなされていない状況でした。



平成15年前後、大規模工場の跡地利用や地権者による再開発事業の気運が高まり始めます。

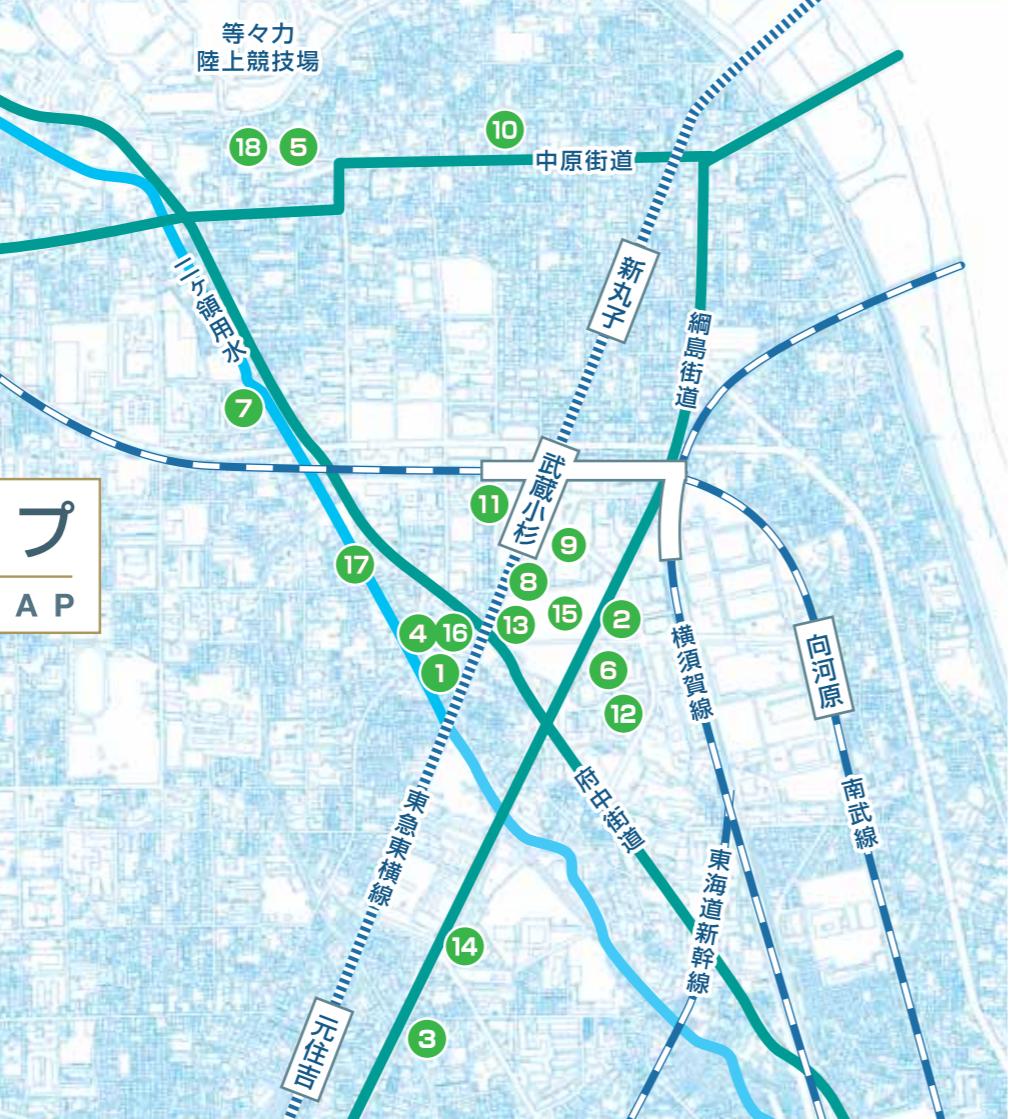
本市では、一体的に魅力あるまちづくりの実現に向け、地区計画による計画的なまちづくりとともに、平成20年度には、将来のまちづくりの方向性などを示す都市計画マスターplan※を策定しました。

また、まち全体として、一体感ある良好な景観づくりの必要性が高まり、現在は、景観法に基づく「景観計画特定地区※」を指定し、都市計画マスターplanや地区特性を踏まえ、建築物や屋外広告物などに関するルールを定め(景観形成基準)、本市の都市拠点にふさわしい魅力ある景観づくりを誘導しています。

※正式名称:「都市計画マスターplan『小杉駅周辺まちづくり推進地域構想』」 ※景観計画特定地区:<http://www.city.kawasaki.jp/500/page/0000068874.html>



小杉撮影マップ KOSUGI SHOOT MAP



撮影者	題名	掲載ページ
① 前田 邦夫	古いヤツが新しいのを見守ってやるぞ	P07
② 高橋 直子	高層マンションとニューファミリー	P09
③ ケン	6つ又交差点を撮りたかったのですが…	P11
④ まあ～ちゃん	二ヶ領用水脇のアパートの玄関	P13
⑤ RED PANDA	新しい門	P15
⑥ ポインセチア	「太刀持ち」と「露払い」	P16
⑦ 中村 智子	水音の聞こえる緑陰のある散歩道	P17
⑧ T.H	住んでますか～？	P18
⑨ 青柳 和美		P19
⑩ 芳賀 誠	原家薬医門	P20
⑪ 田下 祐多	卵の殻	P21
⑫ M.M.	水盤のある風景	P22
⑬ 橋本 純		P23
⑭ 柳田 政信		P24
⑮ meishan	新しい遊び場	P25
⑯ でこちゃん	気持ちをひきしめて!!	P26
⑰ Emiko.S.K	むかしもいまも…	P27
⑱ 真下 阿香里		P28

撮影者

前田 邦夫

講評 街を魅力的にする要素のひとつは、変わらないものがあるということです。たとえ周囲の建物や風景が変化していても、狛犬や参道の石畳など、変わらないものが在ることに、小杉の意外な豊かさがあらわれています。昔の記憶と現在の風景が重なるいい写真が撮れました。

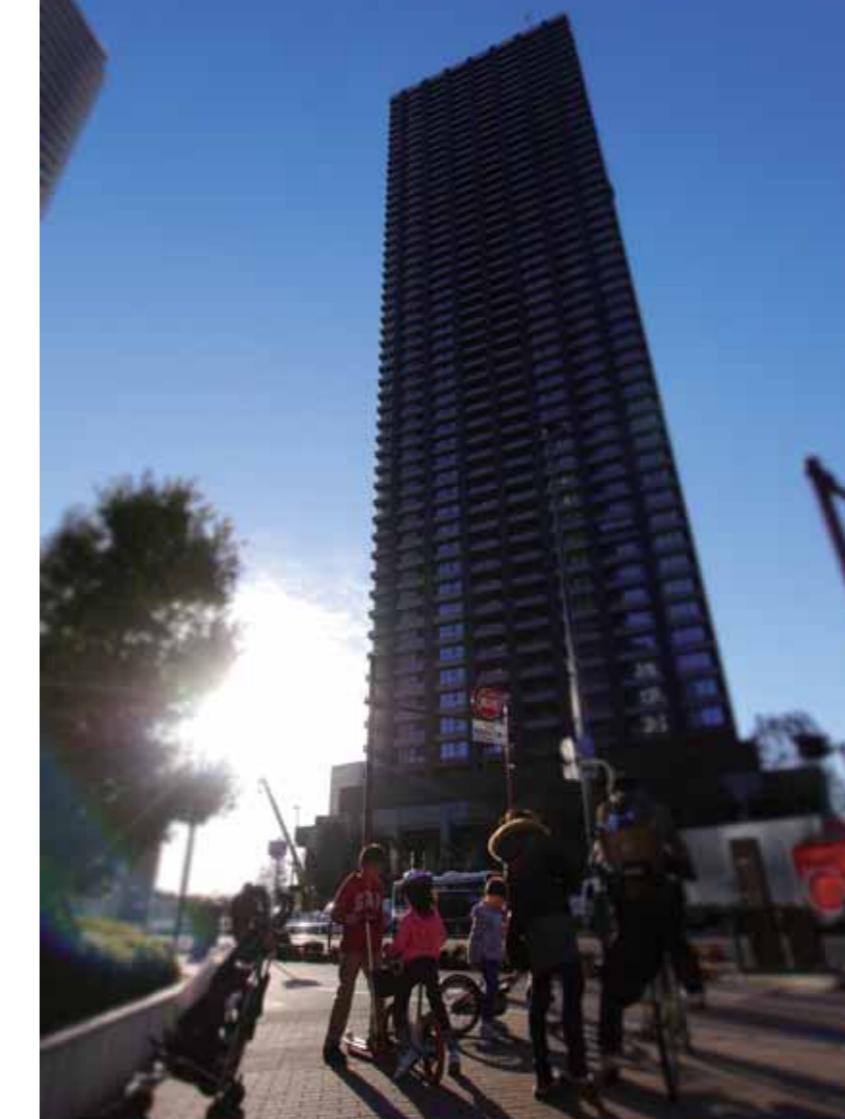


—市民賞
高層マンションと
ニューファミリー

市 民 賞

撮影者 高橋 直子

講評 都心と違って、建物が密に建っていないため
に空が大きく写っているところ、そびえるタ
ワーマンションの手前に家族が写っていると
ころ、これらにとても武蔵小杉らしさが出て
います。撮影者がシャッターを切った瞬間
のあつ思った気持ちが現れた、いい写真だ
と思います。



撮りたかったのですが…

石川賞

撮影者 ケン

コメント オズ通り・綱島街道・渋川が交差する地形。
開発ラッシュの波は元住吉まで来つつも、
土地に定着した構造はしっかりと残っています。

講評 バルコニーの不思議な角度が、四角い建物が
面する交差点の鋭い角度をよく表しています。
奥に武蔵小杉が見えています。
特徴的な風景をとらえた写真が多くったなか
で、この何気ない風景に目を向けている撮影
者のまなざしの優しさに心をうたれました。



— 石川賞 —
— ケ領用水脇の
アパートの玄関

石川賞

撮影者 まあ～ちゃん

コメント 季節のクリスマス飾りが、あたたかい。

講評 このお部屋の住民のかたは、中でなく外に向けて飾ることで、道行く人に語りかけている、といえます。

よい景観のありようは、景観を作る人とそれを眺める人との間にコミュニケーションが成り立ちます。この写真は、景観の上手な読み手としての撮影者と、語り手としての住民との会話の場面だと思います。





古いお寺に設けられた新たな門

小杉には高層ビルがいっぱい。でも俺たち緑も元気、それはずっと長生きさ。100年後には新しい太刀持ちと露払いが来るかな。



「太刀持ち」と「露払い」

ポインセチア

水音の聞こえる緑陰のある散歩道

中村 智子



人にとて住み心地がよい
街だと思うので、ここにも
住民がいるといいなと思つ
て撮りました。





青柳

和美

そびえ立つ、ビル群の空間が、まちを一層魅力的にする。



大正の名残り



再開発エリアの際、昔からある商店街の建物の窓にうつる高層マンション。再開発エリア/商店街はそれぞれ卵の殻のようにそれぞれが殻を閉じ、内側に賑わいが発展しているように感じた。再開発エリアのへりにいかに賑わいを出すかが重要だと思った。





「あそこに住んでいるけど、
ここで髪を切ります。」とい
う地元密着型の生活が理想
です。

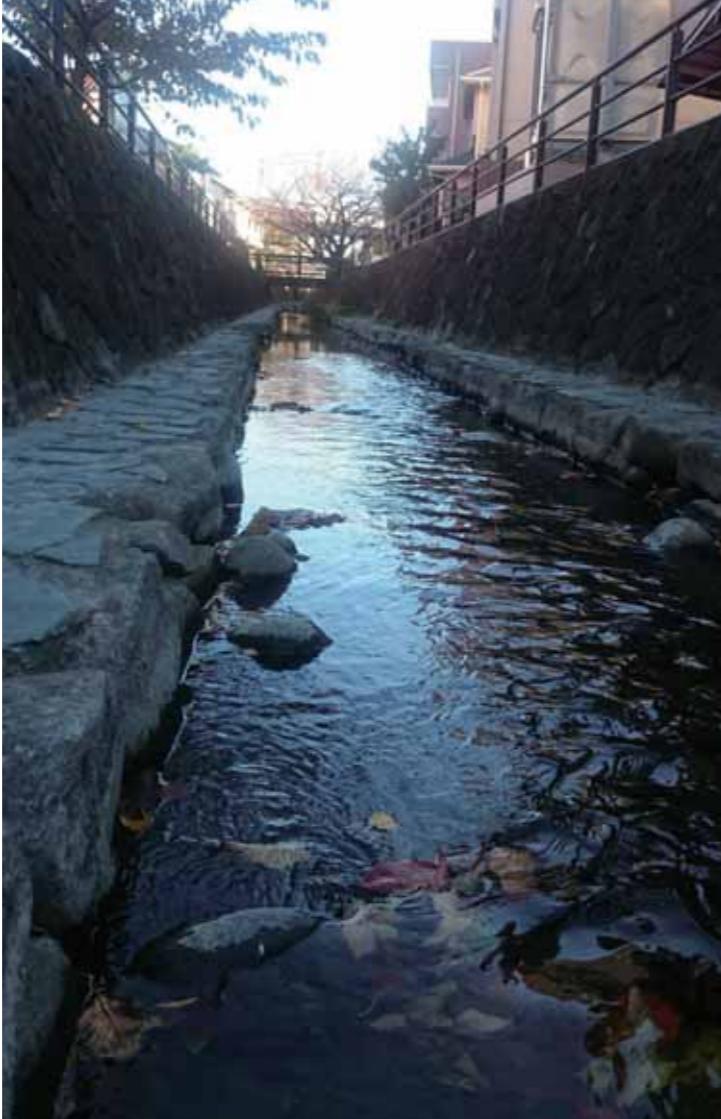


中原平和公園からの高層ビル群です。



タワーマンションの間に、元気に走り回れる気持ちのいい空間がありました。青空の下、楽しそうな声が響いていました。





時代とともに変わっていく景観の中で、変わらずに流れているニヶ領用水の自然景観を撮りました。昔、どこかで感じたことのある懐かしい風や空気感…これからもずっと残って欲しい風景です。

陣屋町から西へ中原街道をずっと歩いていきました。街道は西明寺に入り、紅葉の美しい社内から南を眺めるとタワーマンションが見えました。北条時頼の時代から在るこのお寺と現代の高層ビルが共にある姿が印象的でした。南側に住む人にぜひ北側の歴史を理解してほしいと思いました。



多摩川越しの武藏小杉



あとがき

ワークショップ参加者の皆様に撮影していただいた武藏小杉は、何気なく存在する街並みの一部を切り取ったものや心に残る景観がありました。変わりゆく街に新しいものと古いものが混在し、魅力にあふれる場所であることをあらためて感じることができました。

このフォトブックをご覧いただいた皆様にも、お気に入りの景観や川崎の新たな魅力を発見していただけましたでしょうか。

なお、景観・まちづくり支援課では、良好な景観を形成するための取組みとして、「建物」や「広告物(看板)」等に係るルールを定めています。

また、地区の住みやすい環境をつくり、守るために、地域住民の皆様にまちのルールを検討する団体を作っていただき、職員がその団体の活動をサポートしながら地域独自のルールを定める制度もございます。ご興味をお持ちの方は、当課までご連絡をいただければと思います。

平成28年2月



川崎市まちづくり局計画部景観・まちづくり支援課
Tel: 044-200-3022
E-mail: 50keikan@city.kawasaki.jp